



村野藤吾の 八幡市民会館を もっと知る「市民学習会」

講師: 笠原 一人 先生

日時: 6月10日(土)

13:30~15:30

会場: 八幡東生涯学習センター

講堂 (1階)

◎参加自由・無料

【会場でのカンパに、ご協力いただけますと、ありがたいです】

《講演概要》

八幡市民会館は、八幡市(当時)の戦後復興と発展をリードした守田道隆市長の依頼により、後に文化勲章を受章する建築家・村野藤吾が設計し、1958年に竣工したものです。

八幡製鉄所にちなんだ赤茶色のタイルに覆われ、ギリシア神殿のようにシンボリックで堂々とした、それでいて軽快で清々しい姿を見せています。それは戦後民主主義を象徴し、八幡の戦後史を体現する優れた文化遺産であり、村野藤吾ならではの作品だと言えます。

竣工後約60年近くにわたって市民に親しまれてきた、この建物の文化遺産としての価値と今後の可能性について考えてみたいと思います。

■講演タイトル

文化遺産としての 八幡市民会館

■講師プロフィール

笠原一人(かさほらかずと)

京都工芸繊維大学助教

村野藤吾の設計研究会事務局

1970年 神戸市生まれ

1998年 京都工芸繊維大学

大学院博士課程修了

2010-11年 オランダ・デルフト工科

大学客員研究員

近代建築史・建築保存再生論。共著に

『村野藤吾とクライアント』(国書刊行会)、

『村野藤吾の建築—模型が語る豊饒な世界—』(青幻舎)、

『村野藤吾の住宅デザイン』(国書刊行会)、

『関西のモダニズム建築』(淡交社)ほか。



身近にありすぎて、私たちは見過ごしていたのではないでしょうか!?
今回、村野藤吾の作品を研究しておられる笠原一人先生に、詳しくお話しただく機会を得ました。
「八幡市民会館」のことを、改めて知り、今後のまちづくりに生かせる機会になるものと思います。
どうぞ、自由にご参加ください。

★会場: JR 八幡駅 徒歩で南へ15分

[びびきホール・国際交流センターと隣接]

★駐車場: 80円/30分 近隣に3台パーカ

主催: 八幡市民会館の活用を

求める連絡会

後援: DOCOMOMO Japan/朝日新聞

社/読売新聞西部本社/小倉タイムス

/西日本新聞社/毎日新聞社

問合せ: 090-6297-9009(加来)

090-9563-3815(三浦)